

第5学年1組 音楽科学習指導案

題 材 言葉を大切に歌おう

教 材 「歌よ ありがとう」

1 児童の実態

本学級の児童は、1学期、歌うことに対して恥ずかしいと感じている児童が多かったが、少しずつ声を出すことができるようになってきている。しかしながら、自信をもって思い切り表現することができている児童は少ない。また、元気のよい声で歌うことはできるが、歌詞の意味を考え表現に生かしたいという意識が低いため、自分の声を客観的に聴いて表現を工夫する体験は少ない。

2 題材 について

～言葉を大切に歌おう～について

本題材は、歌詞の内容をもとに、伝えたい思いを歌として表現することができる子どもをめぐりて設定している。具体的には、子ども達が歌詞を十分に味わい、言葉の大きなまとまりをとらえながら、一つ一つの言葉の意味を意識して表現に生かすことができるということである。表現に生かすとは、気持ちを込めて、また気持ちが聴き手に伝わるように歌うという姿である。そのために、歌そのものに勇気づけられたり元気づけられたりした場面の思い出し、歌に感謝する思いを表現した歌、「歌よありがとう」を教材として設定した。

3 教材について

教材分析

(1) 「歌よ ありがとう」の楽曲分析

曲想	歌が自分を勇気づけてくれたり、語りかけてくれたりするという思いを感じ取って表現するメッセージソング
歌詞	歌に対する感謝の思いを表現した、優しく穏やかな歌詞
形式	A (a - a') B (b - b') C
リズム	第1, 3フレーズ; 4分休符やタイを生かした、動きのあるリズム 第2, 4フレーズ; 8分音符を中心とした、流れるようなリズム (弱起) 第5, 6フレーズ; 16分音符を含む、はずんだリズム 第7, 8フレーズ; 2分音符・4分音符を中心とした、力強いリズム
旋律	第1, 3フレーズ; およそ山型進行 第2フレーズ; 下降型順次進行 第4フレーズ; 下降型順次進行、後、上向型順次進行 第5, 6フレーズ; 山型順次進行 対旋律は跳躍進行あり 第7, 8フレーズ; おもに下降型順次進行で、中間部に跳躍進行を含む
和声	第1～4フレーズ; 2番のみかけあい 第5～6フレーズ; 同じ歌詞を異なるリズムで進行 第7～8フレーズ; 3声部に分かれ、上2声部は3度で並列進行のハモリ、低音部は、動きのあるフレーズ
拍子	4分の4拍子
調	へ長調
唱法	全体的にレガート唱、後半の盛り上がり部分は一部マルカート
音色	明るく美しい声
強さ	第1～4フレーズ; m p 第5～6フレーズ; m f 第7～8フレーズ; f
速さ	4分音符 = 84～92の速さ (間奏後、poco rit.・最後1小節、rit.有り)

(2) 「歌よ ありがとう」の教材解釈

歌 詞	楽 曲 の 構 成		
	演奏形態	和声・リズム	唱法
1 番 いつも心の中 にあるやさし い歌に対する 思い (静) sing a song 歌おう 合わせて 響け 歌声 いつまでも	斉唱 心を合わせて歌声を 一つにする (静) ↓ 2部合唱 みんなで歌う歌が、 響き渡っていく (動)	流れるようなリズム(弱起) 弱起の部分…言葉のま まりに合わせて歌う。 前半と後半の違い に気付かせて表現 1 6分音符を含む、はずんだ リズム (動) を生かして歌う。 対旋律も入ってくる。 3度のハモリで、 8分音符の下降	レガート唱で、や さしく語りかけるよ うに歌うといった、 唱法の工夫をさせる ことができる。 →※子音を大切に 歌う。 (mf)
2 番 つらい時に勇 気をくれた歌 に対する思い 心を込めて 君に贈ろう sing a song 歌おう 合わせて 響け 歌声 いつまでも ララララ…	斉唱 ↓ 2部合唱(2番のみ) 2部合唱 みんなで歌う歌が、 響き渡っていく (動) 3部合唱 いつまでも響いていく 歌声	流れるようなリズム(弱起) 弱起の部分…言葉のま まりに合わせて歌う。 対旋律：低音部が高音部 を追いかける…念押し の気持ちでいいねいに 1 6分音符を含むはずんだ リズム (動) を生かして 対旋律も入ってくる。 3度のハモリで8分音符 の下降 上2声部は3度のハモリ 低音パートはオブリガード	レガート唱で、1 番よりも力を込めて (勇気をもって)… 一つ一つの言葉の始 めを大事に(P) (mf) 楽曲の構成をと らえ、一番の盛り 上がり表現 する。 ★ハーモニーに集中 させる。最後は、マ ルカート気味に歌い 上げる。 (f)

※ 本教材で期待できる学習内容

本教材は、歌詞が、歌の思い出や歌に対する思いなどを表した、子ども達にとって分かりやすいものなので、「歌に思いを込めて表現したい」という願いを子ども達自身にもたせることができる。そして、思いを込めて表現するためには、一つ一つの言葉を大切に歌う必要があることに気付かせ、言葉を大切にしたい歌い方について指導していくことができる。

また、リズムは、弱起の「弱い部分」が歌い出しになっているフレーズがある。この部分の歌詞に着目させることにより、フレーズを大切にしたい歌い方について指導することができ、言葉を大切にしたい合唱曲のよさを味わわせることができる。

さらに、楽曲の構成も、1番と2番の歌詞の違いから、「1番はやさしく歌い、2番は少し力を込めて歌おう」や、前半と後半の演奏形態や和声の違いから「前半は斉唱だから心を合わせて言葉をていねいに歌おう」というように、表現の工夫をさせることができる。曲全体を見ても、斉唱から2部合唱、さらには3部合唱へとうつることについて、作曲者の思いを考えさせ、曲を仕上げるこができる。

4 指導にあたって

本題材の指導にあたっては、子ども達が、到達目標を定めることにより、自分達で合唱をつくっていくという意識をもたせたい。そのためにまず、つかむ段階で範唱CDを聴かせ、縦書きの歌詞を十分に読ませることにより、「こんなふうに歌いたい」「こんな気持ちを歌で表現したい」という思いをしっかりとらせる。次に、曲の旋律を覚えた上で、深める段階では、演奏形態や和声やリズム等、楽曲の構成に着目させ、表現を工夫していく。主な支援としては、発声や発音などに関する技能面での言葉掛けをしながら、子ども達自身がめざしている姿に近付けていきたい。そして、味わう段階では、合唱としての表現を見直して仕上げ、自分達の歌声が自分達の手で目指す姿に近付いたという達成感を味わわせたい。

5 指導目標

- 主体的に音楽に関わり、自らの表現への思いを膨らませながら、表現の仕方を工夫しようとする。
(音楽に対する関心・意欲・態度)
- 歌詞の内容を理解し、楽曲の構成をとらえて、表現に生かすことができる。
(音楽的な感受や表現の工夫)
- 歌詞の内容にふさわしい表現をめざし、発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない声で三部合唱することができる。
(表現の技能)

6 指導計画

段階	配時	学習活動と内容	教師の支援
つかむ	1	1 自分達のめざす声をとらえさせるために、範唱CDを聴く。 響きのあるやさしい声	○ 児童の実態に合った範唱CDを聴かせる。 ○ 「忘れられない歌」に関する教師の説話を準備しておく。 ○ 歌詞の意味を理解しながら朗読できるよう、縦書きの歌詞を準備しておく。
		2 言葉の大きなまとまりをとらえ、曲のメッセージを感じさせるために、歌詞を朗読する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">歌に気持ちをこめるために、言葉を大切に歌えるようになるろう。</div>	
		3 フレーズ感を大切に主旋律を歌う。 ・ 休符と、タイの違い(「歌は」と「心」) ・ 弱起部分にアクセントをおかない ・ 英語部分の発音(Sing a songでひとつ) ・ 1番と2番の言葉や歌い方の違い ・ 子音(S音・K音・G音)を大切にされた歌い出し	○ 弱起のリズムにとらわれずフレーズを感じながら歌えるように、拡大楽譜に言葉のまとまりを示しておく。(友達のように優しく、いつでも傍にいるよ、いつまでもわすれられない、一つの歌がある、ラララララ…)
	1	1 副次的旋律を聴き、作詞者の思いを伝えるために効果的な合唱になっているという曲の構成について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">曲をもりあげるために、3部合唱ができるようになるろう。</div>	○ 斉唱から合唱へと盛り上がっていく構成をとらえさせるため、学習プリントの各声部の音符に色をぬらせる。
		2 第5, 6フレーズ(Sing a song～)の対旋律を歌う。 ・ 2分音符をしっかりとる(ソプラノの「歌おう」に受け渡すために) ・ 「ひびけ」の跳躍進行を確かな音程で	○ 演奏形態や和声・リズムの特徴を歌詞と関連させて考えさせるために、拡大楽譜に書き込んでおく。

深める		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「歌声いつまでも」3度のハモリは、音をよく聴いて音程を保つ <p>3 2番の対旋律を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌い出しの音が地声にならないよう、のどをあける ・ 跳躍進行（「いつの日も」、「おくろう」）は、山の部分の一つ前の音を大事に（踏み切り板を踏むように） ・ 「歌声（を）」の3度のハモリは、音をよく聴いて音程を保つ <p>4 お互いの声を聴き合いながら2部合唱をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 正しい音程で歌えるように、ピアノで音をとる。 ○ かけあいの部分は、のぼす音をしっかりのぼして歌えるようにお互いの声を意識させる言葉がけをする。 <p>※ 学習内容2～3の「・」事項は、児童の実態に応じて必要な時に必要な事を随時言葉がけをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 和声の響きを感じ取って歌うことができるように、ハモリの部分を取り出して歌わせる。
	1	<p>1 第7, 8フレーズ（ラララ…）のオブリガードとハモリの部分を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オブリガードは、地声にならないよう ・ ハモリは、音をよく聴いて音程を保つ <p>2 お互いの声を聴き合いながら3部合唱をする。</p> <p>3 斉唱に戻り、合唱との違いを歌い比べる。 （達成感） ～「もっと歌いたい」という意欲～</p>	<p>※ どのパートも全員で歌い、自分に合った声部を選ばせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高音部と低音部、中音部と低音部、高音部と中音部等と、2部で練習した後、3部で合わせ、しっかりと音程をつかませる。 ○ 発声の仕方はよくなってきたこと、音程がしっかりとれるようになったことを認め賞賛する。
味わう	1 本時	<p>1 「歌よありがとう」を3部合唱し、本時のめあてについて話し合う。 …めざしていた歌声になったかな？</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> 自分達の表現を見直して<u>心をこめた歌声</u>をひびかせよう。 </div> <p>2 見直しの観点にそって、自分達の表現を確かめながら歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 言葉に気を付けて歌う。 ○ 曲のもりあがりを表す。 ○ 1番と2番の違いを表現する。 <p>3 確かめたことに気を付けて、3部合唱を仕上げる。</p> <p>4 「今日の学習で」を書き、題材を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 確かな音程で3部合唱できていることを賞賛し、斉唱の時に歌詞を味わって歌ったことを想起させる。 ○ 朗読をしたり、いろいろ歌わせてみたりして、どんなふうにか歌ったらよいかを考えさせる。 ○ 今までの学習内容を拡大楽譜や縦書き歌詞で確かめさせる。 ○ 心をこめた歌声がひびき、気持ちが伝わる合唱になったことを賞賛する。

7 本時（4／4）

平成16年11月22日（月）

5校時 14：00より

器楽室にて

8 本時の目標

- めざす表現に向かって意欲的に歌ったり聴いたりしている。（音楽に対する関心・意欲・態度）
- 発音や発声に気を付けて、思いを歌声として表現した3部合唱をすることができる。

（表現の技能）

9 準備

- ・ 縦書き歌詞
- ・ 拡大楽譜
- ・ VTR機器
- ・ 伴奏CD

10 展開

学 習 活 動 と 内 容	支 援
<p>1 「歌よありがとう」を3部合唱し、本時のめあてについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> 自分達の表現を見直して、 <u>心をこめた歌声</u>をひびかせよう。 </div> <p>※ 言葉に気を付けて歌う（特に斉唱部分） ※ 曲全体の盛り上がりを表す</p> <p>2 見直しの観点にそって、自分達の表現を確かめながら歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 言葉に気を付けて歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 弱起部分：フレーズを大切に ・ 「やさしく」「歌った歌が」「そばに」「こころ」「ひとつの」：子音を大切に ・ 歌い出し：集中（心をこめる） ○ 曲のもりあがりを表す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Sing a song～の対旋律は、地声になっていないか、響いているか（「響け」という歌詞から） ・ ラララ…の部分は、一番の盛り上がりになっているか ・ ブレスの取り方の検討 ○ 1番と2番の違いを表現する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1番はそばで語りかけるように、2番は勇気をもって（歌詞から） <p>3 <u>確かめたこと</u>に気を付けて、3部合唱を仕上げる。（2の活動で挙げた部分）</p> <p>4 「今日の学習で」を書き、題材を振り返る。 ※ 自分の表現が高まったかどうかという観点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ きれいな声で歌えるようになったこと、互いの声を聴き合ってハーモニーができてきていることを認めながら、もっと歌いたいという意欲を引き出すために、第1時の「言葉を大切に歌った活動」を振り返らせる。 ○ 「心をこめた歌声」の具体的な姿を掲示する。 ○ 朗読をしたり、いろいろ歌わせてみたりして、どんなふうに歌ったらよいかを考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> …… 第1時（言葉を大切にした歌い方、）を想起させる。 …… 前奏の聴き方の指導 …… 第2時（曲の構成）を想起させる。 …… 低い音は、のどを開いて響かせる。「け」の発音。 …… おなかで支えた声（力で歌うのではなく、豊かに） …… 第1時（歌詞の解釈）を思い出させる。 ○ 確かめたことに集中して歌えるように、教師は指揮をする。 ○ 一人一人の声がひとつのハーモニーとなって、聴く人に気持ちが伝わる合唱ができあがったことを賞賛し学習をまとめる。